

会長を語って



「観光産業と商工業の接点を求めて」

栗駒鶯沢商工会

会長 菅原 久男氏

○会長さんのご商売についてお聞かせください。

平成十四年行政書士を取得し事務所を開設、現在栗原市議会議員として活動しながら、商工業者の皆様の各種許可申請や更新手続き等を行っております。相談ごととしては、遺言の作成など地域生活に密着した相談的な活動を行っています。

○地域の商工業の状況はいかがですか。

栗駒地区は、商業・農業を中心に発展して来た地区であり、鶯沢地区については、細



新たな観光土産品を目指し

「史都多賀城万葉まつり」

いにしへのロマンを今に

「史都多賀城万葉まつり」十月七日(日)開催

MY TOWN ホット情報

多賀城・七ヶ浜商工会

倉鉦山を中心に鉱業で発展して来た地区であります。現在、両地区は、近隣に大型SCの進出により、消費者は車で二十分程度の距離にある築館、金成へと購買が流出しており、地区内の人口は、約一万六千

人で約五千世帯の住民がおりますが、減少に歯止めがかからず、厳しい状況です。○商工会が取り組むまちづくり事業についてお聞かせ下さい。

これからは、「栗駒山」を中心とする観光資源を活用し、観光産業を中心とする産業振興を考えて行かなければならないと考えております。

まずは、観光産業と一体となった商業振興が不可欠であり、「低農薬の大豆やそばを使った土産品」や「木材を活用した工芸品の製作」等、六十万人の観光客を一時的に回遊いただく方策も必要であると考えています。

また、当地区には、希少価値のある土産品「くりこま牛」や酒・味噌・漬物・駄菓子・和菓子などの多くの土産品があり、これらを再構築し、融合化することで、新しい観光資源となる方策を検討し、地域資源を最大限に活用したブランド商品の開発と、くりこま独自の事業展開やプロジェクトに挑戦していきたいと考えております。

『史都多賀城万葉まつり』

はいにしへのロマンを今に伝え、多賀城の秋を彩る風物詩として十回目を迎え、本年も十月七日(日)午後一時から多賀城廃寺跡(多賀城跡附寺跡)ほかで開催されます。

多賀城の歴史を辿ると、奈良時代初期に「蝦夷」を支配するため、大和政権の陸奥国の国府と鎮守府が置かれ、平安時代にわたって東北地方の政治・軍事の中心地となつて

いました。

日本最古の歌集『万葉集』



約四百人大行列

の編者であった大伴家持は、晩年に陸奥按察使・持節征東將軍の役職につき、多賀城とかわりがあり、そうした大伴家持をしのぶまつりが「万葉まつり」です。

まつりに使われる衣装は、ボランティアで活動している約二十人の衣装部の皆さんが中心になって、使われなくなった着物や帯から白無垢、更にはカーテンを集めて、まつりで使われる万葉衣装に形を変え、市民手づくりによる万葉衣装を身につけて「大伴家持」が生きた時代を再現する「まつり」として定着してきたものです。

行列は、多賀城市役所西側

駐車場から多賀城廃寺跡までパレードし、参加者は、行政区・幼稚園・中学生・一般公募の方々約四百人からなる大行列がまちを練り歩きます。また、万葉ステージでは万葉踊りの披露、笙の演奏、家持の歌の朗詠などが行われ、この他に茶席(野点)や売店も設けられます。

この機会にあなたも「いにしへのロマン」にタイムスリップしてみませんか。

【問合せ先】

史都多賀城万葉まつり実行委員会
多賀城市中央二丁目二十五の三
生涯学習センター内
電話 ○二二一三六八一七七四五